新里 裕之　しんざと・ひろゆき

1980年8月29日沖縄県出身。
株式会社アスレティッククラブジャパン　代表取締役

宜野湾高校時代に全国高校サッカー選手県大会に二度出場。日本サッカー界初の快挙となったメキシコ五輪銅メダル獲得の立役者・故宮本輝樹氏の誘いを受け九州共立大学に進学するも宮本氏の逝去とともに自主退学。当時Ｊリーグ参入を目指して設立された群馬FCや沖縄かりゆしFCを経て、2003年FC琉球（現Ｊ２）の設立に参加。

アドバイザーとしてFC琉球のサポートに入っていたラモス瑠偉からのオファーもあり若干20歳ながら監督に就任。元日本代表選手やＪリーグでのキャリアを経たベテラン選手などを束ね圧倒的な結果により沖縄県3部リーグを制覇。その年全国から3万人の署名が集まり、県1部リーグへ飛び級昇格。

その後、読売クラブで一時代を築いた元日本代表・与那城ジョージや実業団チームとして当時最強を誇っていたホンダ技研を常勝に導いた吉澤英生、2002年日韓W杯を率いたフィリップ・トルシエ、ブルキナファソ代表を率いたジャンポール・ラビエなど、時代を築いた名将のもとで、ヘッドコーチとしてのキャリアを積み、2009年28歳で再び監督に就任。最も厳しいリーグと称されていた当時のＪＦＬリーグ（J1、J2から数えて３部リーグにあたる）の中、当時、プロリーグ参戦の意思がないアマチュアチーム（ソニー、YKK、北陸電力、横河電気、佐川急便、本田技研、三菱自動車）などが混在し、FC琉球は運営費総額でリーグ加盟クラブの中で最も最少予算の中、シーズン折り返しまで首位に立ち、天皇杯の出場権をシード枠で獲得するなど沖縄県勢初となる成績を収める。

その後、ブラウブリッツ秋田（2012年～2014年）、2019栃木SC（2015年～2019年）サガン鳥栖（2019年～2021年）とゼネラルマネージャー、テクニカルディレクターなど強化及びクラブマネジメントの責任者として携わる。

クラブマネジメントの観点から、目先の結果で監督や上層部が責任を取り続け数年おきにクラブの体制が変わり続ける自転車操業式クラブのマネジメントから、サッカーをその街へ文化として定着させるためには、関わる全ての関係者が共有できるフィロソフィーの確立なくして語れないというマネジメント論を説き、チームビルディング、クラブマネジメントに従事。特にスポーツ界の持つ影響力の強さから、スポーツ界をESG投資の視点から投資対象としての価値を引き上げるために最も重要なガバナンスの徹底に重きを置くチームマネジメントを実施。

その手腕は新里再生工場と言われるほど、キャリアアップに悩む選手や下部リーグなどの選手などに希望を与え国内外においてキャリアアップのサポートを続けている。

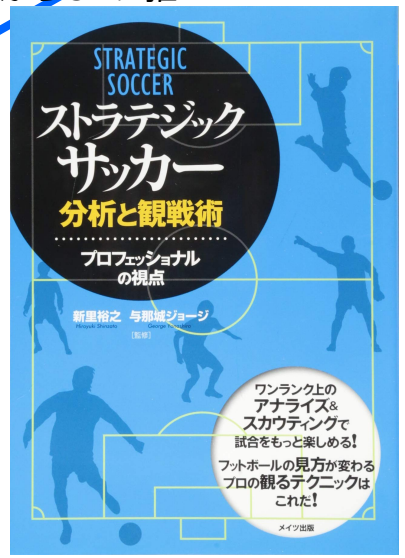
選手、監督、スタッフその家族に至るまで関係者との対話を最も大切にしている。

安田式体育遊び研究所　特任研究員
リタジャパン株式会社　スポーツダイレクター

ヘッドコーチに就任したブラウブリッツ秋田では、上司にあたる監督からGMに推薦され就任

栃木SC時代は、一人三役「強化部長」「テクニカルディレクター」「トップチームコーチ」をこなすこともあり、常に現場を優先したチームづくりに取り組んだ。

元日本代表を率いたフィリップ・トルシエがチーム内の決定権を28歳の若き指導者に全てを託した。（2009年）



当時としては珍しい戦術本を出版

ゼネラルマネージャーを務めたサガン鳥栖ではリーグ内最小の年俸総予算にも関わらず、一時ACL出場圏内に順位をつけるなど、無名の選手でもチャンスを与えれば結果が出るということを実証した。

秋田ではサッカー元日本代表選手を集結させ、『サッカー教室』『J DREAMS vs 秋田県16歳以下選抜（2020東京五輪世代）』を実現。子どたちへの夢づくりに取り組んだ。